

葛飾キャンパス移転

2025年4月に、薬学部(薬学科及び生命創薬科学科)及び大学院薬学研究科は野田キャンパスから葛飾キャンパスに移転します。葛飾キャンパスは、本学建学の精神である「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」のもと、独創的な先端融合分野の研究を推進する「イノベーションキャンパス」として整備されています。また、隣接する「葛飾にいじくみらい公園」は、地域住民と共生する触れ合いの場となっています。薬学部もこの葛飾キャンパスの一員として、先端融合分野研究の推進及び地域との共生に貢献します。

金町駅(JR常磐線・東京メトロ千代田線)、京成金町駅(京成金町線)から徒歩8分



葛飾キャンパス
薬学部新校舎(イメージ)



東京理科大学

Tokyo University of Science
Faculty of Pharmaceutical Sciences

薬学部60周年記念



60周年にあたって



薬学部長(第20代)
ミヤザキ サトル
宮崎 智
MIYAZAKI Satoru

東京理科大学薬学部が創立60周年を迎えましたこと、同窓生の皆様、学部運営にご尽力いただいた教職員の方々とともに、心より祝福させていただきたく存じます。この10年間の本学部の道のりは決して平坦なものではありませんでした。歴代の学部長が私を含めて6名入れ替わったということも、激動の時代となっていたことを象徴しているように思います。

2006年から施行された薬学6年制教育を受けて国立大学を含む全国の薬学系大学が薬剤師教育の充実に舵をきる中で、本学薬学部は、1学年の学生数を6年制定員80名、4年制定員100名という様式をスタートさせました(2012年より6年制定員100名)。薬剤師育成の期待を裏切ることなく、本学が掲げてきた実力主義と研究者育成の伝統は決して絶やさないと強いメッセージを発信したことでしょう。ただし、本学の4年制教育も修士課程を含む6年一貫教育とすることとしたので、薬学部は実質6年制となったと言っても過言ではないかもしれません。

薬学部長として東京理科大学薬学部の説明をする機会が増える中で、「和える」と「柔軟性」という2つのキーワードを使わせていただいています。本学の薬学部では、基礎から実務、それを支える幅広い学問領域と十分に調和があり、同時に、本学薬学部の関係者は、好奇心を実現するための謙虚さを意識していることを伝えようとしてきました。これからも、平常心で力を結集して難題に立ち向かう学部でありたいと願います。

薬学部は、2025年(創立65周年)に葛飾キャンパスへ移転します。嘗ての神楽坂校舎や現在の医療薬学教育研究支援センター、野田の薬用植物園そして葛飾の新校舎が完成し、全てのキャンパスでの教育研究の経験と活動拠点を有する学部となります。本学及び同窓生の方々からもご支援をいただきながら、本邦を代表する薬学教育のコアとなることを祈念し、ご挨拶といたします。

薬学部長(2010年～)



大島 広行(第15代)
(2006.10～2010.9)



田沼 靖一(第16代)
(2010.10～2012.9)



牧野 公子(第17代)
(2012.10～2014.9)



深井 文雄(第18代)
(2014.10～2016.9)



鍛冶 利幸(第19代)
(2016.10～2018.9)



宮崎 智(第20代)
(2018.10～)

在籍教員(2010年4月～2021年9月、○:研究室代表教員、太字:現職)

薬学科

分子薬学(○西谷潔)、薬化学(○望月正隆)、薬化学(○高橋秀依、**牧野宏章**)、有機薬化学(○稲見圭子)、生薬学(○浅田善久)、生薬学・薬用植物学(○羽田紀康、大嶋直浩、大越一輝、前田純子)、資源植物化学(○和田浩志)、天然物化学(○安元加奈未)、薬効物理解化学(○寺田弘)、薬品物理化学(○牧野公子、友田敬士郎、廣田慶司、竹内一成)、薬品分析化学(○中村洋、井上明)、有機分析化学(○佐野明)、臨床分析科学(○東達也、井上明、小川祥二郎、楠瀬翔一)、病態分析化学(○東恭平)、生化学・分子生物学(○田沼靖一、高澤涼子、藤川誠、佐藤聡)、生化学・分子生物学(○佐藤聡)、医療分子生物学(○高澤涼子)、感染分子標的学(○野口耕司、山本雄一郎)、臨床薬物代謝学(○石井賢二)、衛生化学(○武田健、立花研、梅澤雅和)、衛生化学(○市原学、櫻井敏博、宗才)、公衆衛生学(○鈴木潤三)、環境健康学(○鍛冶利幸、廣岡孝志、吉田映子、中野毅)、放射線生命科学(○小島周二、月本光俊)、放射線生命科学(○月本光俊、北島和己)、薬理学(○岡渾一郎、濱田幸恵、恒岡弥生、薬理学(○齋藤顕宜、山田大輔)、応用薬理学(○磯濱洋一郎、堀江一郎、松山真吾、村上一仁)、疾患薬理学(○吉澤一巳)、臨床薬理学(○谷中昭典、福本敦)、疾病病態学・臨床薬理学(○鈴木立紀)、薬物治療学(○青山隆夫、赤木祐貴、下村斉、河野洋平)、医薬品科学(○松岡隆)、生物薬剤学(○廣田孝司、宮嶋篤)、生物薬剤学(○西川元也、草森浩輔)、製剤学(○芳賀信、藤原成芳)、DDS・製剤設計学(○山下親正、堀口道子、秋田智后)、医療デザイン・臨床製剤設計学(○花輪剛久、河野弥生、小澤千尋)、医療薬剤学(○海保房夫)、臨床薬剤情報学(○真野泰成)、実務薬学・臨床薬学(○根岸健一)、医薬品情報学(○太田隆文)、医薬品情報学(○佐藤嗣道)、医薬品評価学(○嶋田修治)、医薬品安全性学(○砂金信義)、医療安全学(○小茂田昌代、尾関理恵)、レギュラトリーサイエンス(○鹿野真弓)、レギュラトリーサイエンス(○櫻井信豪)、リスクコミュニケーション(○堀口逸子)、コミュニケーション学(○後藤恵子)、調剤学(○土谷隆紀)、薬局管理学(○上村直樹)、薬局管理学(○伊集院一成)、薬局管理学(○鹿村恵明)

生命創薬科学科

薬品合成化学(○小林進、鈴木孝洋)、有機化学(○和田猛、原(岩田)倫太郎、佐藤一樹)、創薬合成化学(○内呂拓実、坪郷哲、田中健太)、生物有機化学(○青木伸、北村正典、久松洋介、嵯峨裕、田中智博)、生物物理化学(○大島広行、高田陽一)、生物物理化学(○横山英志)、量子物理化学(○後藤了、島田洋輔、大塚裕太)、創薬ゲノム科学(○増保安彦、小中原収)、分子病態学(○深井文雄、大脇敏之、伊藤田拓也)、分子病理・代謝学(○樋上賀一、沖田直之、須藤結香、小林正樹、田川亮真、野崎優香)、遺伝子制御学(○内海文彰、浅井将、荻野暢子)、分子医科学(○秋本和憲、多森翔馬)、免疫創薬学(○原田陽介)、分子薬理学(○早田匡芳)、微生物薬品化学(○早川洋一、福田隆志、伊澤真澄、市村穰、木股祥子)、生命情報科学(○宮崎智、鈴木智典、榎大、近藤洋介、中野義雄)、免疫学・臨床免疫学(○安部良)、分子免疫学(○北村大介)

薬学部60周年を祝して



理事長
HAMAMOTO Takayuki
浜本 隆之
HAMAMOTO Takayuki

この度、本学薬学部が創設60周年を迎えましたことを、心からお慶び申し上げます。

遡れば、1960年の薬学部の創設は、単科大学として誕生した東京理科大学が理工系総合大学へと大きな飛躍を遂げる引き金となりました。その後、長年にわたる関係各位のご努力により、熱意ある優秀な創薬研究者や薬剤師を社会に輩出し続け、国内外の薬学界において確固たる地位を築き上げてこられたことに、心から敬意を表します。

近年の高齢化社会の進展を受けて、薬学部が基本理念として掲げる「医薬分子を通して人類の健康を守る」という志を持つ優れた人材の需要は日増しに高まっておりますが、特に昨今のコロナ禍においては、薬学部への期待が尚一層大きなものとなっております。社会における責務の大きさを改めて痛感しています。そして今後とも、理工系総合大学である本学においては、理学、工学分野を始めとする他分野との融合研究の推進にあたり、薬学部の存在感がさらに増していくものと確信しております。

関係各位のこれまでのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、薬学部の今後の更なる発展を祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。



学長事務取扱
OKAMURA Soichiro
岡村 総一郎
OKAMURA Soichiro

薬学部創立60周年、誠にありがとうございます。

東京理科大学の140年の歴史の中で、数学、物理、化学の伝統的な学問領域に加え、60年前に生命系として薬学が加わったことは大きな意義を持ち、薬学部も本学の看板学部へと発展を遂げています。2003年には、神楽坂キャンパスから野田キャンパスに移転し教育研究の充実を図るとともに、2006年には、新薬学教育制度に対応すべく、学科の方向性を明確にし、6年制の薬学科ではヒューマニティあふれた高度な医療人としての薬剤師の養成、4年制の生命創薬科学科では先端創薬科学を担う研究者の育成がなされています。多くのすぐれた卒業生

が各方面で活躍している現状を知るにつけ、卒業生自身の不断の努力は勿論のこと、今日まで薬学部を支えてこられた関係各位のご尽力に心より感謝し、今後の更なる発展を祈念いたします。



東京理科大学薬学部 60 周年記念 <https://www.ps.noda.tus.ac.jp>

発行日: 2021年9月30日 発行: 宮崎 智 〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641 TEL: 04-7121-3691

薬学部60周年を祝して



薬学部同窓会会長
カミムラ ナオキ
上村 直樹
KAMIMURA Naoki



東京理科大学薬学部創立60周年おめでとうございます。同窓生を代表してお祝いの言葉を述べさせていただきます。

50周年から早くも10年が経過しました。50周年は京王プラザホテルで大規模に行われましたが、今回はコロナ禍ということもあり記念誌のみの発行は致し方ないと思います。さて薬学部同窓生の中には薬学部の設置は他学部より後ではないかと勘違いしている人も多くいますが、実は理学部の次に設立された2番目に古い学部です。当時の船河原校舎がそれを物語っています。最上階が体育館となっていて、体育の授業が始まると1つ下階にある分析室の天秤が、その振動で測定できなくなったことを今でも覚えています。野田キャンパスに移転して立派な校舎になりました。2025年には葛飾への移転も決定しているということで、都内復帰を機会として母校が益々発展していくことを祈念しております。

◀ 神楽坂校舎（～2003年）



理窓会会長
マスブチ タダユキ
増淵 忠行
MASUBUCHI Tadayuki



薬学部卒業生・教職員・関係者の皆様、創設60周年、誠におめでとうございます。理窓会を代表し心からお祝い申し上げます。

私が理学部物理学科に入学したのは薬学部5期生の皆さんと同じ前回の東京オリンピックが開催された1964年で、入学し少し落ちついた頃、薬学科と物理学科の有志が集い、三浦半島に合ハイしたことを思い出しています。薬学部卒の皆さんは医薬分野のみならず幅広い分野で活躍され、特に新型コロナ対応で日夜努力され、心から感謝申し上げます。

能楽の大家・世阿弥の教えではありませんが、60年前に新宿区船河原町に産声を上げときの初心。野田キャンパスに移転当時に掲げた初心。そして還暦を迎えた今日、葛飾キャンパスへの移転計画が練られており、加えてアフターコロナ時代を見すえての初心を胸に更なる発展を心からご祈念申し上げます。

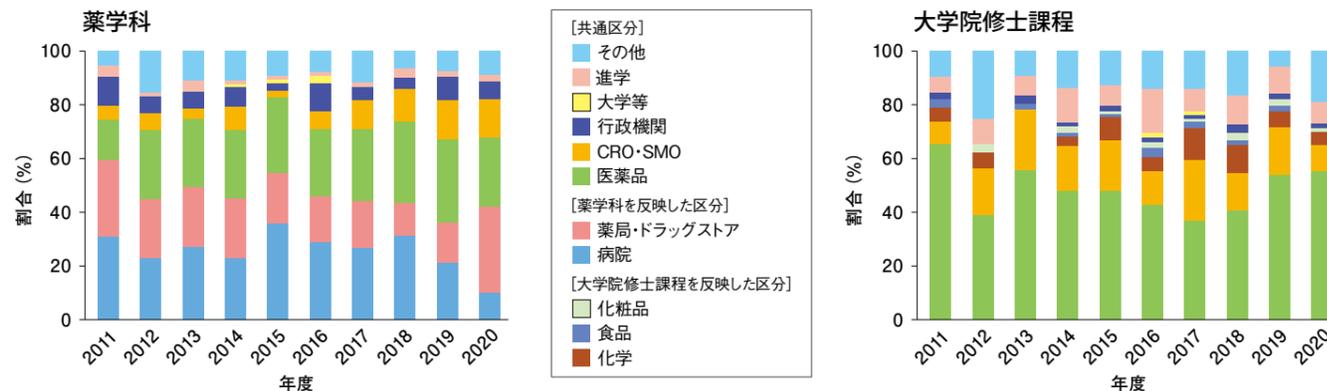
◀ 野田校舎（2003年～）

10年の歩み② データから見た薬学部（2011～2020年度）

卒業生数など（学部:薬学科、生命創薬科学科、大学院:修士課程、博士課程）

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
学部	薬学科	74	78	99	82	73	76	104	95	96	
	生命創薬科学科	138	107	127	78	106	82	130	97	77	
修士	薬科学専攻	72	87	97	79	93	55	83	66	63	
博士	薬学専攻（新・旧）	4	7	2	0	2	1	0	1	6	
	薬科学専攻			0	2	5	2	5	6	8	
定員：薬学科 2006～2011年入学80名、2012年入学～100名 生命創薬科学科 100名											
学位取得	課程博士	4	7	2	2	7	3	5	7	9	12
	論文博士	7	8	6	4	7	2	7	1	9	6
	合計	11	15	8	6	14	5	12	8	18	18

進路（生命創薬学科は卒業生の70～80%は修士課程に進学するため、修士課程の進路を掲載）



10年の歩み① 社会と大学・薬学部の動き（2010年4月～2021年9月）

西暦	元号	国内	大学	薬学部
2010年	平成22年	6月小惑星探査機はやぶさ帰還 10月鈴木章氏、根岸英一氏のノーベル化学賞受賞		3月4年制1期卒業 5月薬学部創立50周年記念式典(京王プラザホテル) 10月田沼靖一薬学部長就任
2011年	平成23年	3月東日本大震災発生 7月なでしこジャパンFIFAワールドカップ優勝	9月野田キャンパスにセブンイレブン野田校舎店開店	
2012年	平成24年	5月東京スカイツリータウンオープン 10月中村伸弥氏ノーベル生理学医学賞受賞 12月第二次安倍内閣発足		3月6年制1期卒業 10月牧野公子薬学部長就任
2013年	平成25年	6月富士山が世界遺産に登録 12月特定秘密保護法成立	3月野田キャンパスに光触媒国際研究センター完成 4月葛飾キャンパス完成、工学部が神楽坂キャンパスから、基礎工学部が野田キャンパスから移転 7月運河駅舎リニューアル	
2014年	平成26年	9月iPS細胞から作られた網膜細胞を移植する世界初の手術が実施された。 10月赤坂勇氏、天野浩氏、中村修二氏ノーベル物理学賞受賞	4月東武アーバンパークラインの路線愛称名を命名	10月深井文雄薬学部長就任
2015年	平成27年	10月大村智氏ノーベル生理学医学賞、梶田隆章氏ノーベル物理学賞受賞 10月マイナンバー制度運用開始		
2016年	平成28年	3月北海道新幹線開業 6月選挙権が18歳に引き下げられる 10月大隈良典氏ノーベル生理学医学賞受賞	4月経営学部が久喜キャンパスから神楽坂キャンパスへ移転	10月鍛冶利幸薬学部長就任
2017年	平成29年	6月上野動物園でパンダの赤ちゃん「シンシン」が誕生 9月桐生祥秀日本人初の100m9秒台達成	4月理工学部創立50周年	
2018年	平成30年	9月テニス女子の大坂なおみが全米オープン優勝 10月本庶佑氏ノーベル生理学医学賞受賞		5月医療薬学教育研究支援センター設置(神楽坂3号館) 10月宮崎智薬学部長就任
2019年	平成31年 令和元年	5月皇太子徳仁親王が第126代天皇に即位、「令和」に改元 9月ラグビーワールドカップ2019日本大会 10月吉野彰氏ノーベル化学賞受賞	6月理工学部新7号館完成	3月日本薬学会第139年会(千葉幕張メッセ)開催(幹事校) 4月大学院薬学研究科に社会人専修コース設置
2020年	令和2年	1月新型コロナウイルス感染症国内初確認 3月東京2020オリンピック・パラリンピック延期決定 4月第1回目の緊急事態宣言発令 9月菅内閣発足	5月オンライン授業開始 7月JR飯田橋駅舎リニューアル	4月創立60周年
2021年	令和3年	2月医療者へのワクチン接種開始 7～9月東京2020オリンピック・パラリンピック開催	4月創立140周年 4月基礎工学部が先進工学部に名称変更	9月創立60周年パンフレット発行



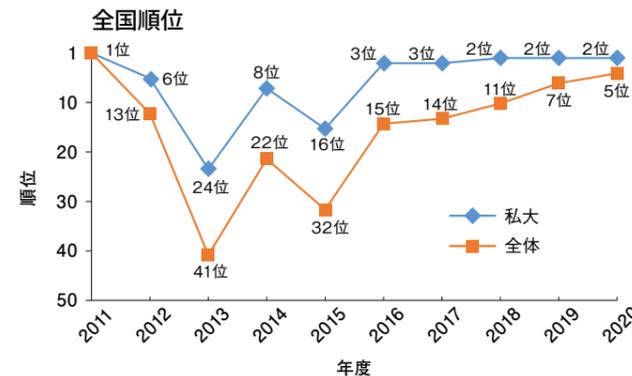
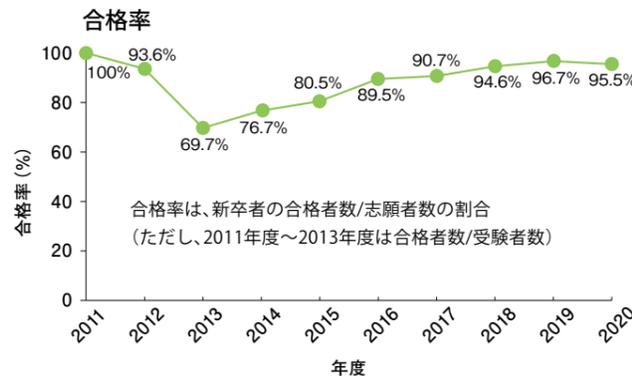
講義

医療薬学実習

ホワイトコートセレモニー

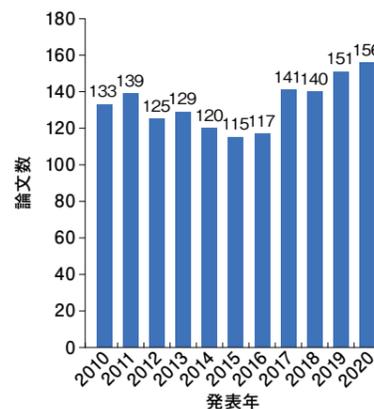
研究活動

薬剤師国家試験



研究

薬学部の発表論文数



理科大薬学部が研究力で私立唯一TOP10入り

75薬系大学の全ての講師以上の教員3071人の2017年度の生物・医学系分野の論文数を集計した。その結果、論文総数は3830報で、内訳は国立大が33%、公立大が9%、旧私立大が43%、新設私立大が15%であった。教員1人当たりの論文数について、多い順に並べると、1位東京大学、2位東北大学、3位大阪大学、4位京都大学、5位九州大学、6位北海道大学、7位熊本大学、8位東京理科大学、8位富山大学和漢医薬学総合研究所、10位岐阜薬科大学であった。私立大では、東京理科大学のみが唯一10位以内にランクインした。

(参考 薬事日報2019年11月25日号)

生涯教育

医療薬学教育研究支援センターの年度別の講座数と受講者数

講座名	年度	2018	2019	2020	2021	
					前期	後期
薬剤師のためのスキルアップ講座	講座数		16	13	8	8
	受講者数		245	661	371	—
レギュラトリーサイエンス研修講座	講座数		7	6	0	5
	受講者数		170	261	0	—
薬学マーケティングとリスクコミュニケーション講座・その他	講座数		6	5	3	5
	受講者数		73	106	52	—
合計	講座数	5	29	24	11	18
	受講者数	248	488	1,028	423	—

2018年度はカテゴリー分けしていません。2021年度後期の講座数は予定です。詳細はセンターのHPでご確認されて、是非、ご参加ください。URL: <https://www.tus.ac.jp/sccp/>